

木更津に!!

スーパーモンスターウルフ出現!



イノシシなど野生動物が農作物を荒らす被害が市内でも深刻化する中、7月11日に木更津市矢那地区の水田近くに“秘密兵器”「スーパーモンスターウルフ」を試験的に設置した。赤外線センサーで動物を感知すると、オオカミの遠吠えや電子音、発砲音、人の怒鳴り声等を発する。また、目が炎の色に点滅し、首が左右に稼動。本州以南での設置は千葉県が初。

スーパーモンスターウルフは北海道奈井江町の機械部品加工、太田精器（太田裕治社長）が北海道大、東京農業大と共同研究で約7年かけて開発し、オオカミの姿をリアルに模したスーパーモンスターウルフが誕生した。

体長65センチ、体高50センチ。“四肢”は鉄パイプ。開いた口から鋭い牙がのぞき、目は火炎色に点滅、首も動く。内蔵スピーカーからは最大90デシベルの出力音で、オオカミの遠吠え、銃発砲音や猟犬の吠える声や、電子音など18種類の威嚇音が出せ、周囲1キロに響きわたる。バッテリーにソーラーパネルをつなげて電源とするため、エサいらず。

“ウルフ作戦”を試みるのは今春、田植えを間近に控えた海辺近くの水田耕作地帯にイノシシが出たことを重大視し、「生息区域を拡げる動物の農作物荒らしを止めないと千葉の農業は崩壊しかねない」と太田精器に相談した。スーパーモンスターウルフにより害獣と人の棲み分けができれば共生への道が開けると梅澤組合長は期待する。

お問い合わせ

JA木更津市営農グループ 0438-98-0321

担当 石渡、藤浪